全国植樹祭に向け 私たちにできること

すくすく成長中!苗木のホームステイ

▲苗木のホームステイスタートイベント（甲賀西保育園で）

苗木のホームステイは、第72回全国植樹祭や関連行事等で使用する苗木を、個人、一般家庭、企業等の法人や団体で育てていただく取り組みで、市内でも多くの方々に参加をいただいています。

今年2月に「甲賀流苗木のホームステイはじまりの術」と題し、忍者に扮した市長が園児たちに苗木を託すスタートイベントを開催し、大会に向けた気運を高めるとともに、園児たちに森づくりの大切さを伝えました。

苗木は、市役所玄関前でも育てられていますので、庁舎にお越しの際はぜひご覧ください。

広がる『緑の少年団』活動

▲結団式で新しい団旗を披露する子どもたち（大原緑の少年団）

全国植樹祭の開催を契機に、『大原緑の少年団』『油日緑の少年団』『佐山緑の少年団』が、今年新たに結成されました。

この『緑の少年団』は、森林・緑の役割とその大切さを学ぶ活動が中心で、その活動は、私たちの暮らしを支えるだけでなく、子どもたちの将来を確かなものにするために重要なものとなります。

今後、この活動を市内の小学校へも広げていく予定です。

「緑の少年団」の活躍が大いに期待されています。

甲賀木の駅プロジェクト

「現在の森林荒廃を何とかしたい。」「美しい里山環境を後世に残したい」そんな思いから甲賀木の駅プロジェクトは誕生しました。

このプロジェクトは、間伐後、放置されたままの林地残材を地域通貨「モリ券」と交換し地域内で利用する仕組みです。

プロジェクトの参加者は、「サンデー林業」と称して休日に集まり、チェーンソーと軽トラで里山を元気にしています。

木の駅プロジェクトによる間伐材の搬出▶

里山づくりを通じて森の大切さを学ぶ ～上下流域での交流事業～

▲力を合わせて木を倒す体験をする子どもたち

市内の森林で、上下流連携による交流事業が行われています。

これは、琵琶湖の水源である上流域の甲賀市民と下流域の子ども達が、本市で協力し森づくりを行い、互いに交流することで森林への理解を深めようとする事業です。

本年7月には、甲賀愛林クラブ・大原自治振興会などが主体となり、甲賀町神の森林で大阪府豊中市の子ども達と15回目となる交流事業が行われ、参加者は、皮はぎ間伐や薪割り体験のほか、大原自治振興会の皆さんから振舞われたジビエ料理など、山の恵を満喫しました。

11月には、油日・上野共有生産森林組合と、生活協同組合コープしがとの交流事業が行われる予定です。

長年の森林活動が実を結ぶ

森林組合は、森林所有者が出資して設立した協同組合で、市内には滋賀中央森林組合があり、森林経営のために、間伐など森林施業の受託や木材の加工など様々な事業を行っています。

近年は、戦後植栽したスギやヒノキといった人工林が成熟し利用可能となったことから、作業道や高性能林業機械を用いて利用間伐が行われており、伐採された木材は、建築物等に使われています。

森林組合の間伐等が進むことにより、森林の多面的機能が発揮され災害の防止や地球温暖化対策などにつながっています。

▲高性能林業機械で搬出される間伐材

甲賀市の木「スギ」

「甲賀杣」「甲賀前挽鋸」に代表されるように、古くから林業が盛んだった甲賀の地を代表する木で、新名神の工事現場では飛鳥時代の巨大な杉の埋もれ木も発見されています。また、市内各地には「杉」の字が付く地名も多く、岩尾池畔のスギをはじめとする銘木、巨木もあります。

美しい自然を次世代へ

甲賀市は、鈴鹿山系や信楽の山々を擁する丘陵地であり、野洲川、杣川、大戸川沿いに平地が開け、古くから水とともに暮らし、先人が森や河川を始めとする自然を守り育ててきたことで発展してきました。

全国植樹祭へ向け、市内では、苗木の配布や森林づくりの手入れなどに活用される地域での募金活動、緑の少年団や魚の放流などの子どもたちが森や緑の自然を守り、育てる活動、里山の再生・保存など、さまざまな活動が進んでいます。

全国植樹祭の開催は2年後となりますが、私たち一人ひとりも改めて身近にある森林や里山などの自然の大切さを再認識するとともに、琵琶湖の水源林として果たす役割を考え、次の世代、その次の世代に美しい甲賀市の自然を引き継いでいきましょう。